

令和7年度 水平館地域連携推進会議議事録

1 日 時 令和8年1月22日(木) 15時00分から

2 場 所 水平館 会議室(犬山市字牛岩37番地 1)

3 出席者

(1)出席した構成員 利用者の家族代表

社会福祉法人犬山市社会福祉協議会障がい者地域相談支援センター
相談専門支援員、犬山市健康福祉部障害者支援課職員
池野地区主任児童委員
社会福祉法人まみずの里統括・富士見館管理者・事務長・事務員
計9名

(2)欠席した構成員 利用者代表(成年後見人)計1名

4 議事の経過の要領

(1)開会あいさつ

水平館管理者より、本会議の趣旨について説明した。

(2)出席者の紹介

出席者全員による自己紹介を行った。

(3)社会福祉法人まみずの里の概要説明

水平館主任生活支援員は、犬山市心身障害児(者)父母の会を中心とした方々による、子供たちが見知った景色の中で生活していけるよう、犬山に入所施設を創る活動から始まった社会福祉法人まみずの里の設立経緯と、法人設立からこれまでの、まみずの里後援会をはじめとする多くの方々がまみずの里を支援し、協力するために続けてきた活動について説明した。また、入所支援施設水平館整備後は、日中活動や働く場所を創るために、現在運営するひびき作業所やきりり作業所を整備していったこと、入所施設での生活から地域の中で生活できるよう、現在5軒の家屋で運営するグループホームを整備してきた法人の沿革について説明した。

また、まみずの里の支援体系について、まみずの里が運営する入所施設、通所施設の機能や各事業所が連携をとって支援していることを説明した。

(4)水平館の概要説明

水平館管理者は、水平館の事業所としての沿革、職員の配置状況、利用者現況と日常生活の様子について説明した。また、利用者の1日の流れについて、平日、休日それぞれの日課や余暇の過ごし方について説明した。

水平館での普段の生活の様子や、年間行事やこれまで実施した外出行事・旅行について、目的や利用者の様子、保護者も参加して行ったこと等について説明した。

(5) 質疑応答

池野地区主任児童委員：「これまで、施設があることは知っていたがどんなところか知りませんでした。以前は夜中に施設から大きな声がして子供たちが怖がっていた。利用者の人達が歩いてるところを見かけるが遠目に見る感じです。施設のことは一歩引いて受け止めています。でも、相手のことを知ればそんなことはなくなるし、子供たちも学校で障害のあるお子さんにできないことは苦手なことと考えて抵抗感なく接しています。相手のことを知らないと言壁ができるので難しいこともあると思いますがもっと知る機会があると壁もなくなると思います。」

池野地区主任児童委員：「障害のあるお子さんをもった親御さんが、お子さんが亡くなったときに全部親が生きているときに片付けられて良かったといったのを聞いたとき本当に重たい言葉だなと思いました。そういったことを言わせないような支援ができないのかなと思います。」

利用者の家族代表：「その話はすごくよくわかります。私も、子供より先には死ねないと思っています。」

統括：「以前、親御さんが入院されたため水平館のショートステイを利用した方がショートステイ期間が終わったときに自分から、『次に親に何かあったときはまたお願いします』とっていました。まみずの里では、自分の周りの仲間が年を取っていき、水平館やグループホームに入所していく姿を見えています。その経験を通じて、自分が年を取り同じ場面になったときには自分から水平館やグループホームに入所することを選択することができていると感じます。」